

人工授精のご案内

人工授精（IUI）を選択するのはどんな場合？

- 精子の数が少ない
- 精子の運動率が低い
- SEXするのが難しい（性交障害、勃起障害）
- フーナーテストがよくない（精子頸管粘液不適合）
- 抗精子抗体が陽性
- 他の検査で問題はないが、なかなか妊娠に至らない（原因不明不妊症）

といった場合に、人工授精の治療が適応となります。

人工授精をご希望の場合は医師へその旨をお伝えください。

人工授精の料金について

人工授精は、保険適応です。

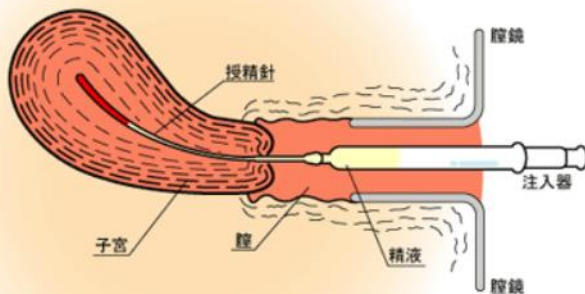
人工授精料 5460円（税込）+診察料その他
合計10,000円程度です。

精子処理代を含みます。

人工授精ってどんな治療？

- ▶ 配偶者（夫）の精子を、排卵の時期に、女性の子宮内に注入し、妊娠の手助けをする方法です。
 - ▶ 受精の場である卵管膨大部へ多くの運動良好精子を送り込むことが、人工授精の目的となります。
 - ▶ 体外受精に比べると、自然に近い生殖補助技術と言えます。
- ▶ 精液は、検査・洗浄・濃縮したものを使用します。
 - ▶ 当院では「遠心濃縮法」または「アイソレート法」を採用しています。
- ▶ 「IUIカテーテル」という細く、柔らかいチューブを用い、子宮の中に精子を注入します。
 - ▶ 精子にとって、頸管粘液を通過するのが大変です。人工授精では、精子が子宮頸管を通過せずに子宮の中に入ることができます。

人工授精の方法(子宮腔内法)



人工授精をするのに、 一番良い日は？

- ▶ 「排卵 2 日前から 排卵後約12時間」と言われています。
- ▶ 卵子・精子ともに、「受精が可能な期間」
 - ▶ 卵子の生存期間は排卵後8時間～12時間、報告によっては 24時間とも言われています。
 - ▶ 一方、精子は射精後、卵子より長く生存（2-3日）することが可能といわれています。
- ▶ その時期は・・・
 - ▶ 卵胞の大きさ（直径17-20mm）
 - ▶ LHサージの状態を診て、医師が排卵日を推測し、IUIの日にちを決定します。
- ▶ 5階受付にて、IUIの予約を入れます。

排卵を促すお薬について

より確実に排卵が起きるように、卵胞が十分に大きくなったら“hCGの注射”や“点鼻薬”を使用し、LHサージを起こさせ、人工授精当日までに排卵直前の状態にする事があります。また、当日のLHサージが弱い場合にも、排卵を促すために使用することもあります。

人工授精 当日の流れ

- ▶ 自宅で採精した場合
 - ▶ 検体を受付で提出



- ▶ クリニックで採精した場合
 - ▶ ご主人が培養室へ直接提出

培養室
精子を人工授精に適した
状態に調整

- ▶ 1時間ほどお待ち頂きます
- ▶ 調整後の精子は5階の内診室に届きます。



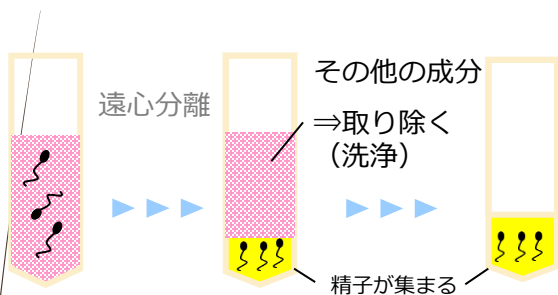
- ▶ 精子の調整が終わったら、内診室にて人工授精を行います。
 - ▶ お手洗いを済ませて、待合室でお待ち下さい。内診室の準備ができましたら、再度呼びます。
 - ▶ 5分程で終了いたします。
- ▶ 診察室にて医師から精子の状態について報告があります。
- ▶ 会計をして、終了になります。

人工授精のための精子調整

試験管の中で 精液と培養液と混ぜ合わせ、**遠心分離機**で**濃縮・洗浄**します。

人工授精の精子調整のポイント

* 濃縮 : 精子を集める



上に溜まった精しょうなどの成分は取り除いて（洗浄）下に集まった精子を回収し、最終的には子宮の中に注入できる液量に調整します。（濃縮）

* 洗浄 : 精子以外の成分を取り除いてあげる

遠心分離によって取り除いた精子以外の成分に含まれるもの

- ◎ 精しょう：精子の受精する能力を抑制（精子が女性の体に入るまで、力を温存させておくため）
- ◎ プロスタグランジン：子宮を収縮させる作用（痛みを伴うこともある）
- ◎ 細菌：子宮内で感染をおこしてしまう可能性がある

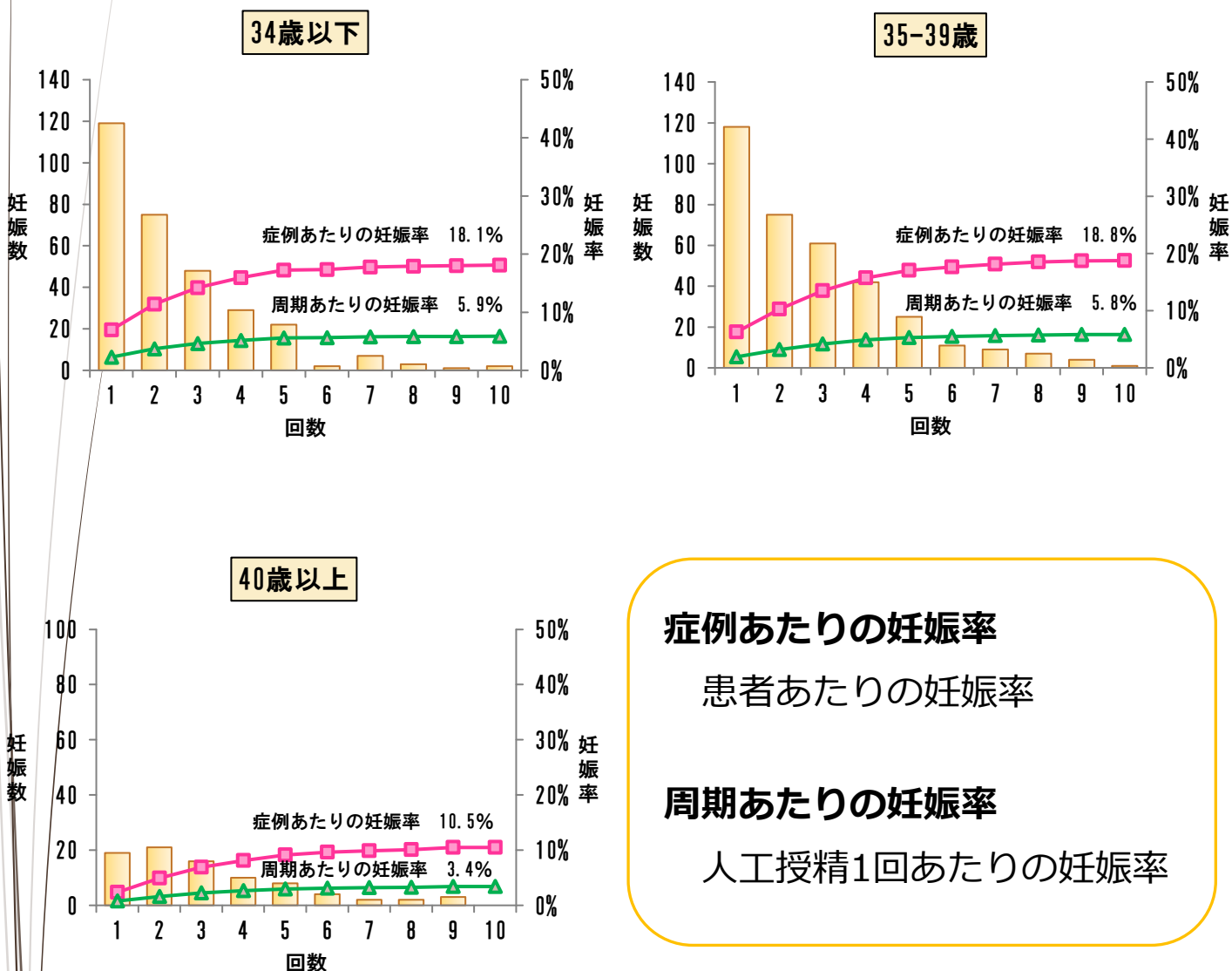
洗浄することで、精子を受精できる状態にし（精しょうの除去）かつ痛みや感染リスクの軽減（プロスタグランジンや細菌の除去）することができます。

人工授精のリスクは？

- ▶ 腹痛が起こることがあります。
子宮内へUIカテーテルという管を挿入することや精子注入が刺激となって痛みを感じる方がいます。
 - ▶ しばらくすると治まりますが、痛みが強い場合には鎮痛剤を使います。
- ▶ 子宮内感染・付属器炎あるいは腹腔内の感染の可能性が あります。
 - ▶ 帰宅後に腹痛や発熱があった場合は早めに連絡ください。
- ▶ 人工授精による胎児への影響はない、とされています。
 - ▶ 染色体異常やその他の疾患が起こる可能性は、通常 of 自然妊娠での可能性と同等です。

人工授精による治療成績について

当院にて、開院から2020年6月の間に4392症例が人工授精を行い、749件が妊娠に至りました。症例あたりの妊娠率は、17.0%でした。以下のグラフは、年齢別の人工授精の治療成績を比較したものです。



年齢により、人工授精の成績が異なることがわかります。

しかし、どの年齢も5回目あたりで妊娠率が上がらなくなっています。

5回程度を目安に人工授精を行い、妊娠に至らなかった場合には体外受精へのSTEP UPを考えましょう。

よくある質問

Q.卵胞チェックをせず、IUIの予約をすることは可能？

- ▶ 基本的に医師が診察をして、IUIの予約をします。

Q. IUIをするなら、性交渉はしない方がよい？

- ▶ 人工授精の治療をする場合でも性交渉は普段通りお取りいただけます。
- ▶ ただし、IUIが決定した場合、前日の夫婦生活はお控え頂いております。（翌日の液量が低下する可能性があるため）
- ▶ 禁欲期間が長いと妊娠率が低下する、という報告もあります。

Q. IUIの後、出血がありました。受診した方がよい？

- ▶ 少量の出血（拭くとつく程度）で、お腹の痛みなどなければ、そのまま様子を見て下さい。カテーテルや婦人科診察時に使う器具の影響かと思います。
- ▶ 痛みがひどくなる、熱がある、出血が増えている…などの場合は、お電話での連絡の上、早めに受診をしてください。

Q. 妊娠検査薬は、いつ使用したら？

- ▶ IUIを行った日から2~3週間後を目安にお使いになってみてください。（予定月経を過ぎてから1週間後くらい）
- ▶ 妊娠判定＜陽性＞が出たら、お電話下さい。
 - ▶ IUIから2週間後に診察を行っても、妊娠しているかどうかは、超音波検査では診断できません。
 - ▶ 当院にて尿検査で妊娠判定を行うことも出来ますが、保険適応外のため、自費となります。（2,420円）

Q. 子どもを連れて行っても良いですか？

- ▶ 申し訳ありません。IUI当日はお断りしております。